

나의 유학생할

완만한 언덕에 마주보고 늘어선 아기자기한 갈색 가옥들. 이것이 교토의 첫인상이었다. 그리고 6년 뒤인 2010년 3월 25일, 나는 다시 교토역 앞에 섰다. 그 때와 변함이 없는 교토에서는 아련한 향수마저 느껴졌다.

애니메이션, 드라마, 버라이어티 방송 등을 통해 일본어에 흥미를 갖게 되었지만 여태껏 제대로 일본어를 배울 기회가 없었다. 대학에 들어와서야 일본어를 시작하게 되었고, 높은 경쟁률을 뚫고 교환학생 합격 통보를 받았을 때의 기분은 아직도 잊지 못한다. 그리고 도시샤대학에 오면서 1년 동안 정말 많은 것들을 느끼고 돌아가겠노라고 다짐했다.

90분이라는 한국보다 긴 수업 시간에, 처음에는 걱정도 많이 했지만 선생님과의 활발한 커뮤니케이션 덕분에 오히려 수업 시간이 짧게만 느껴졌다. 수업 시간에 다루는 내용들은 일상생활에서 자주 쓸 수 있는 말들이라 단기간에 효율적으로 일본어 실력을 늘릴 수 있었다. 또한

다른 나라 학생들과 팀을 이뤄 발표 준비도 하고, 디베이트 준비도 하면서 자연스럽게 그들과 소통할 수 있었다.

날씨가 좋으면 수업을 마치고 친구들과 자전거에 올랐다. 시원한 바람을 가르며 좁은 교토의 골목을 지나가는 즐거움은 한국에서는 느껴보지 못한 것이었다. 수많은 세계문화유산을 곁에 두고 있을 수 있다는 것도 교토의 가장 큰 매력이었다. 역사의 흔적들을 바라보고 있노라면 향수병도 사라졌다.

한국인이 가장 사랑하는, 한국의 대표적인 시인인 윤동주. 새롭게 지어진 건물 사이로 그의 자취가 남아있는 듯한 낡은 예배당에서 60년 전 그를 만났다. 정말 섬세하고 서정적인 그의 시는 늘 내 가슴속에 남아 잔잔한 여운을 남긴다. 여러분도 하리스 이화학관 옆 시비에서 그의 향기를 느끼기를 바란다.

김누리

私の留学生活

なだらかな坂道に合わせて並んでいる可愛らしい茶色の屋根たち。これが京都の初印象だった。そして6年後の2010年3月25日、私はまた京都駅に降り立った。相変わずの京都にかすかな郷愁を感じた。

アニメ、ドラマ、バラエティー番組などを通して日本語に興味を持ったものの、なかなかちゃんと日本語を習う機会はなかった。大学に入ってから日本語の勉強を始めて、高い競争率を突破して交換学生に選ばれたときの気分が、今でも蘇る。そして、同志社大学に来て、1年間、本当に色々なものを感じてから帰ろうと自分に念を押した。

90分という韓国より長い授業の時間を、最初は心配でしたが、先生と活発にコミュニケーションができたおかげで、むしろ授業の時間が短く感じられた。授業で習った内容は、日常生活でよく使われる言葉だったので、短期間で効率的に日本語の実力を高めることができた。また、他の国の学生たちとチームを組んで発表の準備をしたり、ディベートの準備をしたりして、自然にみんなとの交流ができた。

晴天時は授業が終わったら友達と自転車に乗った。涼しい風を切りながら京都の狭い道を走る楽しさは、韓国では感じられないものだった。多くの世界文化遺産のそばに住めることも京都の魅力だった。歴史の痕跡を眺めていたら、ホームシックも癒された。

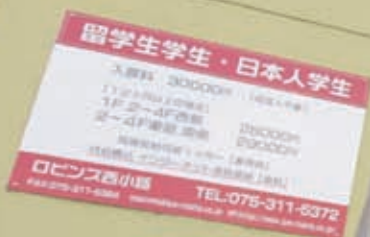
韓国人が最も愛する、韓国の代表的な詩人、尹東柱^{ユンドンジュ}。新しい建物の中、彼の名残が残されているような古い礼拝堂で60年前の彼と会った。とてもデリケートでリリックな彼の詩は、いつも私の心の中で、言葉で言い尽くせぬ余韻を残している。皆さんもぜひハリス理化学館の隣の尹東柱詩碑で、彼の香りを感じてほしい。

金ヌリ 2010.4 ~ 2011.3 日本語・日本文化教育センターに在学



多鹿 正男さんに聞く

インタビュー
三宅 孝さん
〔経済学部3年次生〕



今回の同志社人

多鹿 正男さん 【1973年法学部政治学科卒業】

1951年生まれ。京都市出身。在学中、通訳ボランティアなどを通じ国際交流への興味を深める。卒業後、大手スーパー勤務を経て㈱ロビンズインターナショナル創設。現在、同志社学生寮「ロビンズ北白川」をはじめ8件の賃貸住宅を運営。留学生向けの住居を提供する一方、NPO法人・国際人文交流協会理事長としても活躍中。

三宅 ●国際居住研究会に所属し、海外での建築ボランティアなどに参加している僕にとって、多鹿さんが取り組まれている留学生支援活動には非常に関心があります。
多鹿 ●日本へ来る留学生をまず悩ませるのが、住む場所の確保です。その部分を支援したいと、京都市内にある建物のオーナーと交渉して、住宅インフラとして改修し、留学生たちに提供しています。この時代ですら通信設備は整えておきたいのですが、彼らのために家賃はできるだけ抑えたい。そこで自分たちができることは自分たちでやって、経費を抑えるように頑張っています。さらに彼らにはアルバイトや人間関係などでも支援が必要だと思うので、その部分は理事長を務めるNPO法人・国際人文交流協会の活動と連携する形で取り組んでいます。

三宅 ●そのNPO法人では、どのような活動をされているのですか。

多鹿 ●京都の観光文化、人、経済交流の活性化が目的です。例えば中国の青島市との間では、人民政府幹部や青少年修学旅行代表団などが、京都に来訪する際のコーディネートなどをしています。この夏には、その青島市で開催される国際ヨットレースに、同志社大学ヨット部のOB選抜チームが京都市代表として参加したのですが、その仲立ちもしたのですよ。活動は非常に幅広いですね。

三宅 ●そもそも国際交流、あるいはボランティアに目を向けられるようになった原点はどこにあるのでしょうか。

多鹿 ●実家が京都の清水寺門前で陶器と土産物の店をしていて、店に買い物に来る外国人と接する環境で育ったのが、最初の入り口ですね。自分が知っている単語を並べて話しかけ、伝わったりするとうれしくなって印象に残るでしょう。それで大学時代はESSにも所属しました。当時は高度経済成長真っただ中で、フォークソングあり、学生運動ありと、若者を熱中させるものがいくつもありました。何より、世界に対して「日本はこれからまだまだ伸びるぞ」という気概が実感できる時代でした。そんな背景も関係していたからでしょう、私がESSにいた当時仲のいい友人から誘われたサークルで、カナダなど外国からやって来た人と接触する機会を持つようになったのです。それでいろんな人と国を越



えて交流する喜びを自然に知っていきました。

三宅 ● 学生時代、海外旅行はされましたか。

多鹿 ● ええ。卒業に必要な単位の大半を3年次までに取っておいて、4年次にはカナダやヨーロッパなどを旅しました。そこでさまざまな人と出会い、ハプニングに遭遇し、自分の落ち度による失敗も経験しました。そうしたことを全部含めて、感じ取ったのは「人間は、世界中どこでも根本は一緒なのだ」ということ。その旅の途中で自分が困ったと感じたことは、今、留学生たちへの支援活動の柱として生きていますね。

三宅 ● 近ごろ、海外に行きたがらない若

者が増えています。現に僕たちがインドやフィリピンなどへボランティアに行くと「自分で費用まで負担して、なぜそんな大変な所へ？」と聞かれることもあります。

多鹿 ● それは私も残念な風潮だと感じています。海外での様々な体験そのものが貴重で、そこから違った自分も見えてくる。だから若者にはどんどん海外に出て、経験を積んでほしいと思います。一方で、「ボランティア」という言葉のもと、本来有償であるべき活動が隠れて見えにくくなっているのではないか、国自体が日本人の持つやさしさに甘え、頼りきりになっているのではないかと感じます。これは

議論していくべき問題だと思いますね。さらに、海外での活動で鍛えられた学生の皆さんのエネルギーを日本に持ち帰ってほしい。いじめや貧困、孤独死など、国内でも力を必要としている人は非常に多いですから。

三宅 ● 建築や不動産の知識は、どのようにして身につけられたのですか。

多鹿 ● 卒業後、流通業界に就職し、店舗開発を担当した時期がありました。そこでの仕事は不動産調査から土地所有者との交渉、素人ながらに図面を引いたり活用プランを練ったりもしました。そうした経験が、現在の事業にすべて結びついていました。雇事の担当に配属されたこともありましたよ。少ない予算でも、いかに楽しい企画で人を集めるかを考える日も来る日も考えていたおかげで、発想力が養われたと思います。

三宅 ● 無関係とも思える業種のなかに、今のお仕事に直結することが多々あったのですね。

多鹿 ● そう。ですから若いうちは新しいことにどんどん興味を持って、吸収しておいてほしい。私は結局、大学でも卒業に必要な単位数を大きく上回る科目を履修しましたから。

三宅 ● やりたいことの選択肢を自分から増やしていく、ということですね。

多鹿 ● そうして培ってきた自分の資質が、何かのはずみで花開いたり、別の要素となることがあります。のちに自分でも

ハッとするような展開が待っていることがあるのですよ。私の場合、住宅ではなく商業施設として有効に利用できる土地はないかと京都の不動産を見て回っていたのです。すると、ある一棟の古いビルと出会い、ました。その時に思ったのです。「人が労力をかけて建てたビルにも『いのち』があるのではないか。それを生かし、維持していくのかわれわれの社会的責任ではないか」と。目の前の古いビル、エコというビジネスチャンス、そしてそれまで漠然と持ち続けてきた「国際交流に役立つ」とことへの思い。それらがつながつた結果、誕生したのが当社の第一号物件となった「ロビンスキシナ」です。

三宅 ● 多鹿さんはDESA（同志社交換留学生協会）の創設にも関わられたと伺っています。

多鹿 ● ええ。3代目として組織の運営に立ち会いながら人と接し、海外研修なども経験して、多くのことを学ばせてもらいました。われらが母校も今、国際交流への取り組みには一層力が入っているようですね。ただ最近、日本の学生にとって「留学生との交流」「一緒に遊ぶ」といった、軽いアプローチになりがちなのはと危惧しています。せっかくの交流を深めるチャンスに、日本人学生が壁を作っているような気がしますね。

三宅 ● 「壁を感じる」というのは、留学生を対象にしたアンケートの回答にも多いです。「もっと話をしてほしい」「なかなか仲良くなれない」と感じる方が多いようです。

INTERVIEWER

三宅孝さん

経済学部3年次生

京都市出身。入学と同時に国際居住研究会に入会、現在同会の代表として約150名のメンバーをまとめ上げている。東南アジア・南アジアでの住居建築ボランティアを軸に、教育向上などを目的とする活動も展開。学部では、その活動の中で関心をもった「ベーシックインカム(基礎所得保障)」を研究テーマとするゼミで学んでいる。

国内外を問わず、
より主体性をもった活動を

サークルでは今、フィリピンのスラム街で暮らす女性に刺繍を覚えてもらい、女性の収入向上を目指す支援活動に取り組んでいます。大学の協力も得て、この秋にはその完成品を学内の生協で販売する予定です。もちろん日本にも貧困問題は存在するので、僕たちも少しずつ取り組んではきましたが、今日お話を聞き、まだまだ積極性が足りないと感じました。多鹿さんのように自分から「こんなこともできる」と発信し、周りを巻き込んでいく。これからはそうした環境づくりにも努めていきたいと思っています。

多鹿 ●留学生たちはもともと本質的な部分での相互理解を求めていると思いますよ。それから、海外で様々な人と会って話をしてみると、京都はお寺の街というのはいくよく知られていますが、学問の街でもあることは、まだまだ知られていないのだと感じることがあります。ですから自治体も大学も、もっと明確に情報を発信して、さらに強いアピールをしなくてはなりません。そして京都に学ぶためにやって来た留学生たちにとって、思い切り学べる環境づくりを推し進めてほしいというのが私の願いです。もちろんわれわれも、そのサポートに力は惜しみません。

三宅 ●個人的な話になりますが、僕は今、団体の代表をしています。個性的なメンバーをまとめるのに思い悩むことがあり

ます。リーダーとしてどうあるべきか、アドバイスをいただけたらいい。

多鹿 ●ひと頃のようにリーダーシップを発揮し、ぐいぐい引張っていくようなリーダー像と、現在のリーダー像は変わってきていますからね。一つ言えるのは、小さな声も聞き漏らさずに受け止め、納得いくよう話をするという、基本的かつ豊かなコミュニケーション力を持つてほしいですね。そしてどんな些細なことでもいいので、一人ひとりの学生に責任を持たせてあげてほしい。例えば10人の外国人を大学に招く機会があったとしたら、その客人を迎えに行き、地下鉄に乗せて同志社まで連れてくることを任せる。そんな小さなことでいいのです。そして無事、任務をまっとうできたなら、そのメンバーをしっかり褒め

てあげてほしいですね。私もそうですが、先生や先輩に褒められた記憶は、いくつになっても残るものです。そしてそれが、さまざまな場面で自分を支えてくれる自信にもなっていくと思います。

三宅 ●わかりました。では最後になります。が、学生たちが何をどう学ぶべきか、お聞かせいただけますか。

多鹿 ●とにかく学ぶということに対して、壁を作らないでほしいですね。大学での勉強ばかり、海外経験ばかり、さらに人から学ぶことにも。同級生という横のつながりだけでなく、例えば先輩と縦の関係も築いて、幅広く話を聞く機会を持てば、先輩の考え方や知識が得られるでしょう。その先輩の言葉をそのまま単純に受け入れるのではなく、じっくり考え、自分の考えを導き出していく。それと同時にさまざまな経

験をして、人の痛みや苦しみを共有できる力も育ててほしいと思います。時には失敗して怒られたっていいじゃないですか。そして「なりたい自分」の像を描いていくのです。

三宅 ●いかに生きるか、信念を持つということでしょうか。

多鹿 ●信念というと大げさになりますね(笑)。「ロマン」でいいでしょう。「こうなりたいな」というロマン、またはあこがれ。将来社会に出て、迷うことがあったとしても、きつとそれが自分を支えてくれるはずです。そのロマンを実現するチャンスが来ることを信じて、力強く生きていってほしいですね。

三宅 ●今日はいろいろ刺激を受け、考えさせられました。貴重なお話を本当にありがとうございました。



何をするにも一発勝負。 リスクを恐れていては何もできない。

マスコミやメディアに関心があつて、新聞専攻のある同志社大学に入学しましたが、当時から普通に就職をして働くというイメージは持っていませんでした。映像制作を始めるきっかけとなったのは、現在文化情報学部におられる鋤柄俊夫先生との出会いです。1年次の時、寒梅館の建設に伴う発掘調査が始まり、補助員に応募

して、彼のライブの音源とアニメーションでミュージックビデオを作ってみようと考えたのです。まったくの趣味で作り上げた世界でしたが、手当たり次第コンペティションに提出したら、思わぬことに由緒ある「第18回CGアニメコンテスト」で入選。もともと努力すれば何とかなるのでは、と上京を決意しました。

しかし、最初の1年間はアルバイト暮らし。それ以外の時間は部屋にこもって作品作りに没頭しました。極貧と言える生活でしたが、旺盛な情熱を頼りに制作を続け、翌年に色々なコンペティションで賞をいただいたことできっかけをつかみました。そして2007年1月、TOKYO MXの音楽番組「MUSIC B.B.」のオープニングジングルアニメーションを手がけ、本格的に映像アニメーション作家としてのキャリアをスタートさせました。

私には「何をするにも一発勝負」という気持ちがあるからです。普通に就職活動して会社に入っても、順風満帆にいくとは限りませんし、どこでもリスクは存在します。この生活がずっと安泰だと思わず、その感情を作品へのモチベーションにつ

なげることで、次のステップに進んでいきたいと考えています。私のように手書きで一枚ずつ描いていくアニメーションは、いかに枚数を描くかという単純な作業量がクオリティにつながる部分が大きく、仮に収入を時給で換算するとあまり良くはない(笑)。もちろん体力的にもしんどいのですが、完成した時の充実感もひとしおです。在学生の皆さんには、「きつくて面倒なことこそ楽しい」とお伝えしたいですね。

高校時代に美術部だったので、イラストと映像技術の組み合わせでアニメーションが自然と頭に浮かび、蓄積してきた技術やノウハウを生かせば何かできるのではないかと思いついたのが、大学生活5年目の頃。発掘事務所での友人にバンドマンが

現在、滋賀県の自宅を仕事場に、月1、2回打ち合わせで上京する生活だが、近々東京に拠点を移す予定。ただ「制作の拠点はどこにあっても同じで、日本にある必要もないくらい」。事実、主たるフィールドであるミュージックビデオは、日本国内よりも海外での評価が高い。特に2009年に発表した作品「the TV show」は、数多くのコンペティションで賞を獲得する一方、YouTubeを通して国外で多くの支持を集め、海外の映画祭でも上映された。海外で販売されている有名なDVDにも収録されており、自身「やりたいことを追求していくと、日本より外国の方が合っているかもしれない」と言う。次に「榎本晃佑」の名が発信されるのは、海の向こうからかもしれない。

榎本 晃佑さん

【2006年文学部社会学科新聞学専攻卒業】

映像・アニメーション作家

現在、滋賀県の自宅を仕事場に、月1、2回打ち合わせで上京する生活だが、近々東京に拠点を移す予定。ただ「制作の拠点はどこにあっても同じで、日本にある必要もないくらい」。事実、主たるフィールドであるミュージックビデオは、日本国内よりも海外での評価が高い。特に2009年に発表した作品「the TV show」は、数多くのコンペティションで賞を獲得する一方、YouTubeを通して国外で多くの支持を集め、海外の映画祭でも上映された。海外で販売されている有名なDVDにも収録されており、自身「やりたいことを追求していくと、日本より外国の方が合っているかもしれない」と言う。次に「榎本晃佑」の名が発信されるのは、海の向こうからかもしれない。

強い信念を持つて積極的に動けば、 仕事はやりがいのあるものになる。

MR(医薬情報担当者)は、医薬品の有効性・安全性に関する文献や、特定の疾患に関する情報などを病院や薬局を訪問し医療関係者に提供しつつ、一方で薬に関する情報を収集する仕事です。私が武田薬品工業のMRとなり6年が経ちましたが、実は大学時代はマスコミを志望していました。

ことばかり。「医療の一端を少しでも担いたい」という気持ちとは裏腹に、製品以外の知識や経験が足りず、ドクターが話す内容の単語すらも理解できませんでした。何も役に立ってないことが本心に情けなくて、泣きながら営業車のハンドルを握ったことが何度もありました。

けることができました。人からの指摘で気づかされることもありましたが、自分の「この仕事をしたんだ」という信念に従って行動すれば、少々の困難は必ず乗り越えられます。そのためには、たくさんの人に会ったり教えてもらったりと、自分から進んで動かないといけません。そうして物事に積極的に関わっていくことで、仕事もどんどん楽しく、面白くなっていくと実感しています。

テレビ局で番組制作がしたくて、3年次にはインターンシップにも参加しましたが、最終面接で涙をのみ希望は叶いませんでした。落ち込んでいた時、MRの方のお話を聞く機会があったのが、私にとってのターニングポイントになりました。MRという仕事は、担当エリアにおいては自分が会社の代表者として、企画の提案など自由に自分の考えを形にできる。そう聞いて、テレビ制作と形は異なるけれど、これも一つの「クリエイティブな仕事」なのではないかと、MRを志しました。

武田薬品に入社して、最初の半年は大阪の研修所でみっちり研修を受けました。人命に関わる医薬品を扱うため、基礎的な知識やスキルの習得には、他の業種より多くの時間をかけるのです。研修が終了した9月、最初の配属は千葉の営業所でした。文系学部出身なので、最初は戸惑う

しかし、勉強を重ねながら根気強く病院に通ううち、徐々にドクターとの会話の密度が濃くなり、人間関係も深まってきました。要望にしっかり対応できることが自信につながり、MRという仕事の魅力を実感するようになっていきました。ある時、当社の医薬品による治療によって患者さんの病状が大きく改善され、とても喜んでおられたとドクターから聞きました。私たちが患者さんと直接ふれあう機会とはほとんどありませんが、本当にこの仕事をしていたよかったという充実感でいっぱいになりました。その時の喜びは、ずっと忘れたくないと思います。

振り返ると、私は高校や大学の頃から、したいことを明確に考えて動くことが多かったと思います。就職で一度挫折を経験しましたが、そこから新しい世界を見つけ、その仕事に大きなやりがいもまた見つ

上野 知紗さん(旧姓:地村)

【2004年商学部卒業】

武田薬品工業株式会社 横浜支店 湘南営業所 第1エリアチーム

中学から大学まで同志社。大学時代は「父の「大学の4年間は思い切り遊べ」という言葉を真に受けて(笑)、NGOのボランティアでタイの山岳民族の村に1カ月間泊まり込むなど、学生時代にしかできないこと、やってみてことを思う存分しました」。製品の関わる領域ごとに担当者を分けない武田薬品では、基本的に1人で自社製品すべてをフォローするため、必然的にMRに求められる水準も高い。一人暮らしを始めた新人の頃は、慣れない仕事に「西へ向かう夜行バスを見ては、京都に帰りたと思っていました」と言う。結婚を機に、現在の営業所へ、「4年目くらいから自信がついてきました。子どもができて、この仕事は続けたいと思っています」と笑顔を見せた。



bふらっとプログラム

- 10月14日(木) 「Wata Fei」テルミンコンサート 17:30 ~
- 11月16日(火) 映画上映「アリス・イン・ワンダーランド」
12:30 ~ / 15:00 ~ / 17:15 ~

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体10月~11月の活動予定—

【今出川校地寒梅館ハーディーホール】

- 10月23日(土) ピアノ研究会「三大学合同コンサート」
15:00 (14:30) 無料
- 11月20日(土) 邦楽部「第79回定期演奏会」17:00 (16:30) 無料
- 【新町別館小ホール】 当日800円、前売600円、39チケット900円(3名様)
- 10月14日(木) 同志社小劇場「十月公演」 18:00 (17:30)
- 10月15日(金) 同志社小劇場「十月公演」
14:00 (13:30)、18:00 (17:30)

- 10月16日(土) 同志社小劇場「十月公演」 14:00 (13:30)
- 【京田辺校地ハローホール】(ホール前広場含む)
- 10月2日(土) Hocus-Pocus 「10月ステージ」 14:30 ~
- 10月4日(月) soul2soul 「ダンス発表ステージ」 12:30 ~
- 10月5日(火) soul2soul 「ダンス発表ステージ」 12:30 ~
- 10月7日(木) コクトウ「ライブ」 12:00 ~
- 10月8日(金) F.B.I. 「10月上映会」 12:30 ~
- 10月16日(土) PENTA 「10月ライブ」 時間未定
- 10月20日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:00 ~
- 10月23日(土) F.S.S. 「オープンホールコンサート」 12:00 ~
- 11月1日(月) ピアノ研究会「ピアノコンサート」 12:30 ~
- 11月2日(火) ピアノ研究会「ピアノコンサート」 12:30 ~
- 11月5日(金) 軽音楽部「後期コンサート」 15:00 ~
- 11月13日(土) とんがりぼうし「3回コン」 10:00 ~
- 11月20日(土) F.S.S. 「一回生コンサート」 12:00 ~

【学外】

- 10月5日(火)~10日(日) クラマ画会「後期展」
11:00 ~ 18:00 (最終日のみ17時まで) 無料
- ギャラリーF(寺町三条下る)
- 10月27日(水)~31日(日) 写真同好会「秋季展」 時間未定、無料
- ギャラリー風蝶庵(阪急河原町駅徒歩7分)
- 11月4日(木) 交響楽団「第82回定期演奏会」
19:00 (18:00) A席1,000円、S席1,500円
- ザ・シンフォニーホール(JR 大環状線 福島駅から北へ徒歩約7分)
- 11月24日(水) 能楽部「同志社EVE能」 無料
- 金剛能楽堂
(市営地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、6番出口より南へ徒歩5分)
- 11月26日(金) マンドリンクラブ「第157回定期演奏会」
18:30 (18:00) 予定 500円
- 京都府長岡京記念文化会館
(阪急電車「長岡天神」駅下車、西へ徒歩6分)

応援に行こう!~体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。

【バスケットボール部】

- 10月2日(土)14:20 ~、3日(日)13:20 ~
関西学生バスケットボールリーグ戦
対戦校:京都産業大学 会場:天理大学 入場無料
- 10月9日(土)11:00 ~、10日(日)10:00 ~
関西学生バスケットボールリーグ戦
対戦校:大阪商業大学 会場:立命館大学 入場無料
- 10月16日(土)12:00 ~、17日(日)11:00 ~
関西学生バスケットボールリーグ戦
対戦校:大阪産業大学
会場:(16日)なみはやドーム(17日)大阪商業大学 入場無料
- 10月23日(土)11:00 ~、24日(日)時間未定
関西学生バスケットボールリーグ戦
対戦校:関西学院大学 会場:京都産業大学 入場無料

【ラグビー部】

- 10月10日(日)12:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:近畿大学 会場:近鉄花園ラグビー場
- 10月17日(日)12:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:大阪体育大学 会場:近鉄花園ラグビー場
- 10月24日(日)12:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:立命館大学 会場:近鉄花園ラグビー場
- 10月31日(日)12:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:京都産業大学 会場:西京極陸上競技場
- 11月14日(日)12:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:天理大学 会場:長居陸上競技場
- 11月20日(土)14:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:関西学院大学 会場:神戸ユニバー記念競技場
- 11月28日(日)14:00 ~ 関西大学ラグビーAリーグ
対戦校:摂南大学 会場:近鉄花園ラグビー場

【硬式野球部】

- 10月3日(日)12:30 ~、4日(月)10:00 ~ 関西学生野球秋季リーグ戦
対戦校:近畿大学 会場:南港中央球場
- 10月9日(土)13:30 ~、10日(日)11:00 ~
関西学生野球秋季リーグ戦
対戦校:関西学院大学 会場:皇子山球場
- 10月24日(日)14:00 ~、25日(月)18:00 ~
関西学生野球秋季リーグ戦
対戦校:立命館大学 会場:わかさスタジアム京都

【ヨット部】

- 10月30日(土)~11月3日(水) 全日本学生ヨット選手権大会
会場:蒲郡海陽ヨットハーバー沖 入場無料

【フェンシング部】

- 10月20日(水)~24日(日) 全日本大学フェンシング選手権
会場:大山崎体育館(JR山崎駅、阪急大山崎駅より徒歩30分)
入場無料

【アメリカンフットボール部】

- 10月2日(土)11:00 ~
関西学生アメリカンフットボールリーグ
対戦校:神戸大学 会場:王子スタジアム
- 10月16日(土)11:00 ~
関西学生アメリカンフットボールリーグ
対戦校:近畿大学 会場:大阪市長居球技場
- 10月30日(土)11:00 ~
関西学生アメリカンフットボールリーグ
対戦校:関西大学 会場:大阪市長居陸上競技場
- 11月14日(日)11:00 ~
関西学生アメリカンフットボールリーグ
対戦校:関西学院大学 会場:西京極陸上競技場
- 11月27日(土)13:40 ~
関西学生アメリカンフットボールリーグ
対戦校:立命館大学 会場:大阪市長居球技場

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対象】一般・他学生

(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)

【会費無料】

【特典】寒梅館イベント情報の郵送(希望者のみ)、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引 etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

「同志社キャンパス フェスタ」 ～『同志社』に会おう。『志』にふれる。～

今秋も「同志社大学の今」をお伝えすべく全国7カ所へ伺って、校友、在学生のご父母、高校生の皆様と交流を行いたいと思います。内容は八田学長による大学紹介、講演会、キャリア支援や入試に関する説明など盛りだくさんです。皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

開催日	開催地	会場	講演講師
10月3日(日)	東京	六本木アカデミーヒルズ49 地下鉄日比谷線「六本木」駅 徒歩3分	加藤 千洋 氏(かとう ちひろ) グローバル・スタディーズ研究 科教授・元朝日新聞社編集委員
10月9日(土)	金沢	金沢エクセルホテル東急 路線バス「香林坊」駅 徒歩1分	真山 仁 氏(まやま じん) 小説家(1987年法学部卒)
10月23日(土)	松山	国際ホテル松山 市電「大街道」駅 徒歩5分	真山 仁 氏(まやま じん) 小説家(1987年法学部卒)
11月3日 (水・祝)	福岡	アクロス福岡 地下鉄「天神」駅 徒歩3分	佐藤 優 氏(さとう まさる) 作家・元外務省主任分析官 (1985年神学研究科修了)
11月14日(日)	松江	松江テルサ JR「松江」駅 徒歩1分	佐藤 優 氏(さとう まさる) 作家・元外務省主任分析官 (1985年神学研究科修了)
11月20日(土)	盛岡	ホテルニューカリーナ JR「盛岡」駅 徒歩8分	真山 仁 氏(まやま じん) 小説家(1987年法学部卒)
11月21日(日)	福島	福島ビューホテル JR「福島」駅 徒歩1分	加藤 千洋 氏(かとう ちひろ) グローバル・スタディーズ研究 科教授・元朝日新聞社編集委員

※ご都合のよい会場へお越しください。

■主なプログラム■

- 受付開始 12:30～
- 開会 13:30 開会挨拶、大学の近況報告(八田 英二学長)
- 講演会 14:00～15:00
『巨龍と巨象ーこれからの中国、インドとどう向き合うかー』
加藤 千洋氏(東京・福島会場)
『小説に託す我が想い』真山 仁氏(金沢・松山・盛岡会場)
『国際社会に通用する同志社のキリスト教主義』
佐藤 優氏(福岡・松江会場)

- 同志社大学のキャリア支援について
- 車座による学生アドバイザーと高校生との懇談会
- 入試説明、グローバル・コミュニケーション学部[2011年度開設予定]
- 紹介・模擬講義「同志社の英語」
- 個別学部による説明・相談 & 入試相談コーナー
- 交流交歓会 16:30～18:00 【会費制】

※詳細は、大学HP「同志社キャンパスフェスタ」でご確認ください。
【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社創立135周年記念 ホームカミングデー2010～こころ精神に帰る一日～

卒業生の皆様を思い出多き「今出川キャンパス」にお迎えし、第11回「同志社大学ホームカミングデー2010」を開催します。旧師や旧友との再会、在学生の活動をとおりて母校との「絆」をより深めていただく機会となることを願います。

【日時】11月7日(日) 10時～16時30分

【会場】今出川キャンパス

- 開会式 10:00 同志社礼拝堂
- 記念撮影 開会式終了後(10:45頃) クラーク記念館前広場
- 学長講演会 11:20～12:00 演題「同志社大学 過去・今日・未来」
- 卒業生交流レセプション 12:30～13:45 【会費制】
(「同志社創立135周年記念リユニオン」との共催)
- ゼミ、クラス、クラブ、OB・OG会などの集会
(教室を開放します。事前に校友・父母課へお申し込みください)
- お茶席(野点)、在学生による模擬店、卒業生・在学生の音楽団体による競演、人力車友の会による「人力車」でのキャンパス散策、応援団の演舞・演奏
- 創立135周年記念展示、Neesima Room「幕末と同志社」展、

「今出川校地発掘調査展示」、「同志社礼拝堂 オルガン演奏会」、「思い出の学生生活」など

- その他 施設公開(同志社礼拝堂、クラーク記念館、新島旧邸ほか)、キャンパスツアー

- 閉会式 16:15頃 明徳館前広場

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社京田辺祭 ～クローバー祭～

10月30日(土)・31日(日)の2日間、「同志社京田辺祭2010」を開催します。愛称が昨年までの「ADAM祭」から「クローバー祭」に変わり、今年の祭りはひとあじ違ったものに!!今までの、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成という観点はそのままに、そこに学生のみなさんにより多く参加いただくことで例年以上の活気あるお祭りを目指します。期間中は、ステージライブ・模擬店・体験教室などがお祭りを盛り上げます。ぜひ、京田辺キャンパスにお越しいただき、お祭りのにぎわいを感じてください。

【日時】10月30日(土)、31日(日) 【場所】京田辺校地

【お問い合わせ先】同志社京田辺祭実行スタッフ TEL:0774-65-7832

同志社EVE

同志社創立135周年を記念して、今年も今出川校地で同志社EVEが開催されます。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として…講演会や演劇、演奏会等が華々しく開催されます。

【日程】EVE期間 11月1日(月)～28日(日)

出店期間 11月26日(金)～28日(日)

【場所】今出川校地

【お問い合わせ先】第135回全学EVE実行委員会 TEL:075-251-4452



WOT(ワット) = "What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料／一般は有料

- 10月7日(木)「映画監督 市川崑の世界」

10:30～『おとうと』(1960年/98分)出演:岸恵子、川口浩

13:00～『ぼんち』(1960年/104分)出演:市川雷蔵、京マチ子

15:30～『東京オリンピック』(1965年/170分)

19:00～『野火』(1959年/104分)出演:船越英二、滝沢修

- 10月14日(木) 映画上映『Railways レイルウェイズ』

10:30～/13:30～/16:00～/18:30～

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課

TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。以降も毎週木曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】入場無料

- 10月5日(火)《特集:プロバガンダ! 1》

17:00～『民族の祭典』ほか

- 10月12日(火)《特集:プロバガンダ! 2》

17:00～『海外特派員』ほか

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。

全日本大学野球選手権に37年ぶり出場

3回戦敗退の悔しさをバネに、 目標は神宮でのリベンジ

野球というスポーツは、タイムアップがないからこそ、諦めなければゲームセットまで何が起ころうかわからない。そして一人だけでは何もできず、一人ひとりの力が集まったチームの力で勝負するというのが魅力です。

兄の影響で野球を始めたのが小学1年生で、最初のポジションはショート。4年生で初めてピッチャーを任されましたが、コントロールに難があつてすぐ外されてしまいました(笑)。それにめげず練習を重ねて、本格的にピッチャーとして認められたのが6年生の時です。中学校では野球部には入らず、硬式野球のボーイズリーグに所属。そこからピッチャー一筋で経験を積み、同志社大学に入学してからも、1年次からマウンドに立たせてもらっています。

昨年の関西学生野球秋季リーグでは、あと1勝というところで優勝を逃していたので、「今年こそは何としても」という強い思いがありました。目の前で栄光をつかみ損ねた悔しさを、チーム全員が胸に抱えて冬から春にかけて努力を重ねてきました。

それがチームとしての成長につながり、春季は7年半ぶりにリーグを制覇するとともに、念願の神宮、全日本大学野球選手権への出場を成し遂げることができました。本当にうれしかったですね。

しかし、2回戦で完封勝利を収めたものの、3回戦はまさかのコールドで敗退。相手に対して完全に力負けした大きな悔しさを抱えて、日々練習しなくてはならなくなりました。あの大舞台で目標のベスト4進出を達成できなかったのは、自分自身はもちろん、チームとしてもまだまだレベルアップが必要だということです。この秋のリーグ戦は、大学生活最後の戦いになります。今の目標は、そこで優勝し、もう一度神宮球場のマウンドに立ってリベンジを果たすことしかありません。

しかし悔しさという点では、高校3年の夏、県大会で序盤にホームランを打たれて降板したことが、これまでの野球人生で一番です。その相手校とは相性が悪く、それまでずっと勝てない僕に、監督がリベンジの機会をくださったのに結果を出せなかった。試合

合には結局逆転勝ちしましたが、その気持ちに答えられなかったことへの悔しさが今でも強く残っています。この秋は二度と、そんな思いをしないようにしたいです。

将来の目標はプロ野球。野球選手である以上は、やはり一番高いレベルのところでやりたいという思いがありますね。チームメイトや家族の笑顔、そして自分のために、これからも努力し続けていきたいと思っています。



藤井 貴之 さん
【法学部政治学科4年次生】